

認知症マフについてご紹介します



マフはもともと毛糸で編まれた筒状の防寒具です。「認知症マフ」とは、イギリスの病院や高齢者施設で「認知症の方が安心感を得られる」として使われているものです。日本では2018年朝日新聞厚生文化事業団が導入し、広島から普及活動が始まりました。現在ではマフ作成のためのワークショップも開かれています。認知症マフは、カラフルな筒状のニット製品で「Twiddle（手でいじる）muff」と言われ、外側や内側に、リボンやボタン、フェルト素材でアクセサリーが縫い付けられます。



2022年の老年看護学会において「身体拘束予防を目的とした認知症マフの活用の検討」という演題で、実際に病院で認知症マフを活用した研究報告がありました。この研究で、入院した重度の認知症患者が認知症マフを触る行動は、「感覚を用いた関わり」のリラクゼーションや、感覚刺激を目的に手触り（感触）を経験する行動であることなどが発表されました。その後、ガイドラインが示され病院や施設へ広がっています。

当院でも入院されて不安や混乱を生じている認知症や認知機能低下のある患者さんに認知症マフを使用できないかと、認知症ケアチームメンバーで試作し使用開始に至りました。やむを得ず一時的に身体拘束を開始・継続する患者さんに対して、マフを手で触れることでリラクゼーション効果となり、痛み・苦痛が緩和され安心感が得られ、また感覚刺激による感触を確かめることで、点滴などチューブ類を気にせずに治療を受けることができるのではないかと考え取り入れております。現在は、地域のボランティアの方々に広く知っていただき、マフを作成していただき院内で使用させていただいております。気に入った患者様は退院時に持参して在宅や療養先で継続してご利用をすすめています。今後もさらに地域へ向けたマフの啓発に取り組んでまいります。この冬には当院でマフを作成する機会を設けておりますので、ご興味がある方は是非参加をお待ちしております。

認知症看護認定看護師
飯島 久仁絵



マフもふカフェ開催します

マフを編んでみませんか？ 得意な方も初心者も大歓迎

11月30日（日曜日）9:00～12:00

12月21日（日曜日）10:00～15:00

1月25日（日曜日）10:00～15:00

2月22日（日曜日）10:00～15:00

3月22日（日曜日）10:00～15:00



開催場所

安曇野赤十字病院大会議室

参加される方は事前申し込みが必要です。（無料）

お電話またはFaxでご連絡ください

連絡先：安曇野赤十字病院 看護部 飯島久仁絵

TEL0263-72-3170 Fax0263-72-9349

マフもふ俱楽部

